

イノベーションに情熱を。
ひとに思いやりを。



第一三共の現況と成長戦略

コーポレートコミュニケーション部
IRグループ 主幹 玉木 和彦

2021年10月4日（月）

将来の見通しに関する注意事項

本書において当社が開示する経営戦略・計画、業績予想、将来の予測や方針に関する情報、研究開発に関する情報等につきましては、全て将来を見込んだ見解です。これらの情報は、開示時点で当社が入手している情報に基づく一定の前提・仮定及び将来の予測等を基礎に当社が判断したものであり、これらには様々なリスク及び不確実性が内在しております。従いまして、実際の当社の業績は、当社の見解や開示内容から大きくかい離する可能性があることをご留意願います。また、本書において当初設定した目標は、全て実現することを保証しているものではありません。なお、実際の結果等にかかわらず、当社は本書の日付以降において、本書に記述された内容を随時更新する義務を負うものではなく、かかる方針も有していません。

本書において当社が開示する開発中の化合物は治験薬であり、開発中の適応症治療薬としてFDA等の規制当局によって承認されてはおりません。これらの化合物は、対象地域においてまだ有効性と安全性が確立されておらず、開発中の適応症で市販されることを保証するものではありません。

当社は、本書に記載された内容について合理的な注意を払うよう努めておりますが、記載された情報の内容の正確性、適切性、網羅性、実現可能性等について、当社は何ら保証するものではありません。また、本書に記載されている当社グループ以外の企業・団体その他に係る情報は、公開情報等を用いて作成ないし記載したものであり、かかる情報の正確性、適切性、網羅性、実現可能性等について当社は独自の検証を行っておらず、また、これを何ら保証するものではありません。

本書に記載の情報は、今後予告なく変更されることがあります。従いまして、本書又は本書に記載の情報の利用については、他の方法により入手した情報とも照合し、利用者の判断においてご利用ください。

本書は、米国又は日本国内外を問わず、いかなる証券についての取得申込みの勧誘又は販売の申込みではありません。

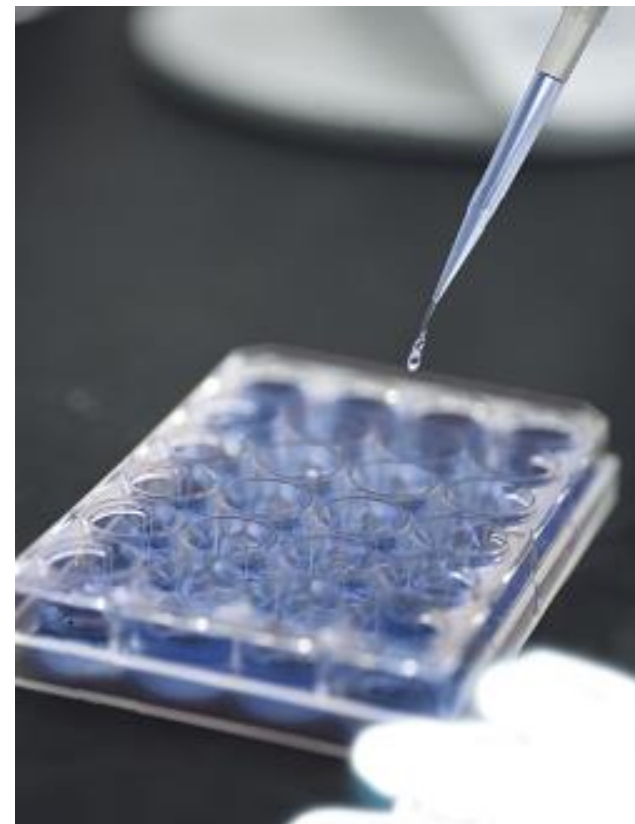
本書は投資家判断の参考となる情報の公開のみを目的としており、投資に関する最終決定はご自身の責任においてご判断ください。

当社は、本書に記載された情報の誤り等によって生じた損害について一切責任を負うものではありません。

1. 医薬品業界について

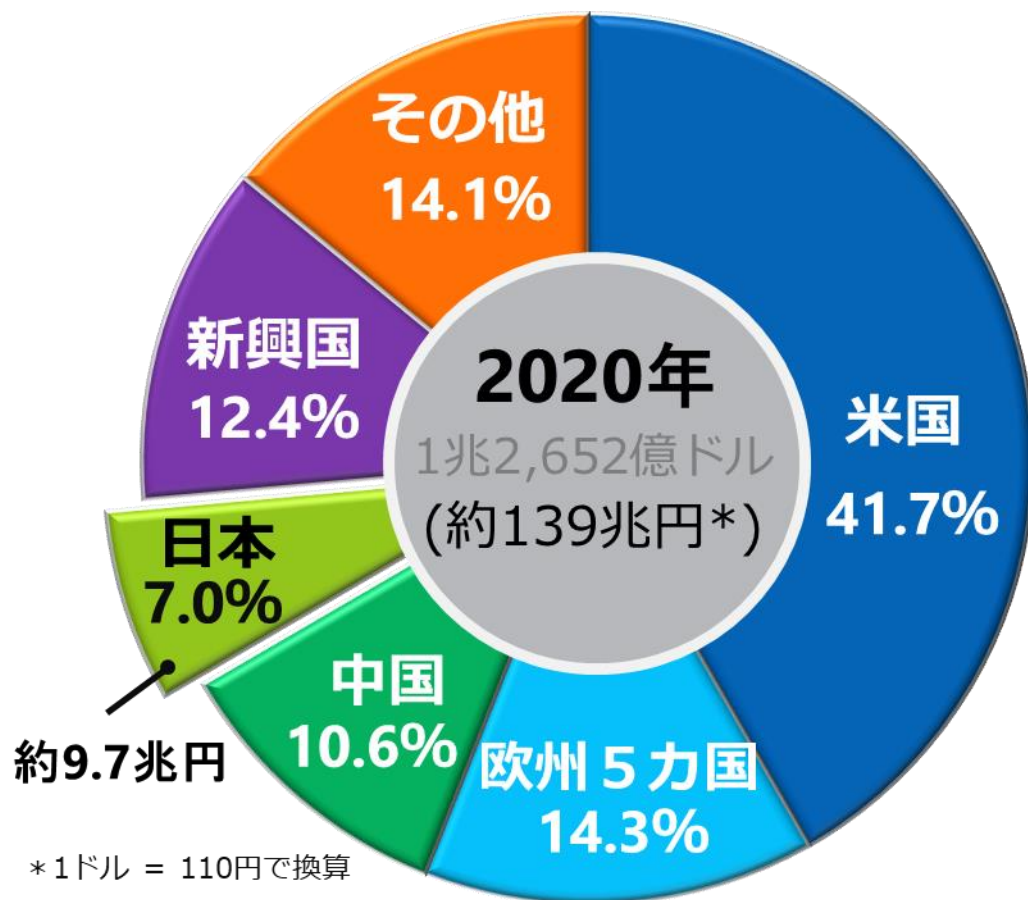
2. 第一三共の現況

3. 第一三共の成長戦略 ～第5期中期経営計画～



世界の医薬品市場（2020年）

各地域別シェア



年平均成長率2016-2020

米国	+4.2%
欧州5カ国	+4.4%
中国	+4.9%
日本	-0.2%

欧州5カ国： ドイツ、フランス、イタリア、英国、スペイン

新興国： ブラジル、インド、ロシア、アルジェリア、アルゼンチン、バングラデシュ、チリ、コロンビア、エジプト、インドネシア、カザフスタン、メキシコ、パキスタン、フィリピン、ポーランド、南アフリカ、サウジアラビア、タイ、トルコ、ベトナム

出典： IQVIA INSTITUTE, Global Medicine Spending and Usage Trends OUTLOOK TO 2025をもとに当社作成

著作権： Copyright © 2021 IQVIA. 無断転載禁止

医薬品

医療用医薬品

- ・ 医師の処方箋が必要
- ・ 公定価格（薬価）

新薬 （イノベティブ医薬品）

満たされていない医療ニーズの充足

- ・ 独占販売期間が認められている

OTC医薬品

- ・ 一般用医薬品や配置用家庭薬など
- ・ 薬局やドラッグストアなどで購入可能
- ・ テレビなどで個別製品の宣伝が可能

後発医薬品 （ジェネリック医薬品）

医療費の抑制

- ・ 独占販売期間が過ぎた後に発売
（新薬の半値以下）

製薬企業のビジネスモデル

特許権存続期間（20年）
+ 各国制度上の延長期間、データ保護期間等

独占販売期間満了
ジェネリック医薬品参入

探索研究

前臨床試験

臨床試験
(フェーズ1、2、3)

承認審査

新薬発売

独占販売期間

ジェネリック医薬品

パテントクリフ
(特許の崖)

新薬が発売されるまで

9~16年

新薬を開発するのに

数百億~1千億円超

化合物が新薬になるのは

1 / 25,000

ジェネリック医薬品

開発期間

3~4年

開発コスト

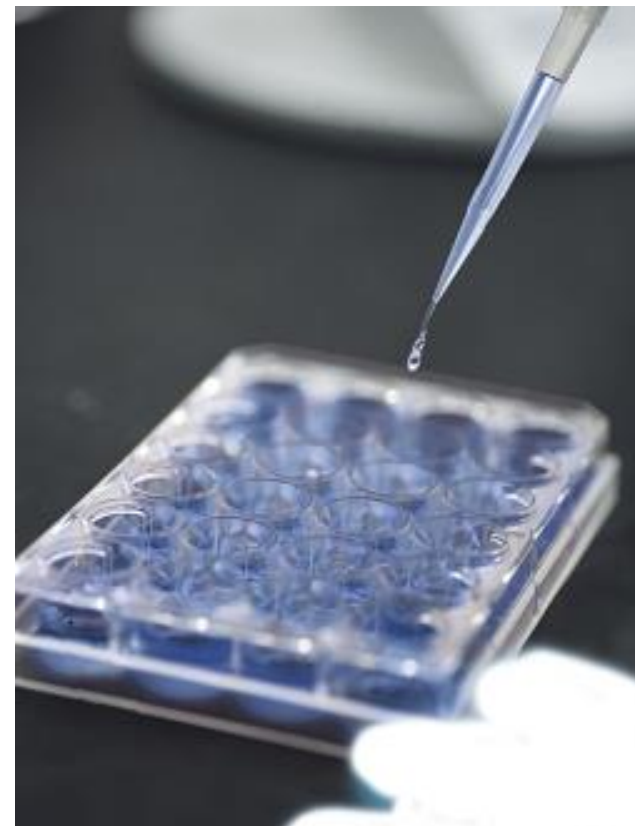
数億円

新薬の売上の推移イメージ

1. 医薬品業界について

2. 第一三共の現況

3. 第一三共の成長戦略 ～第5期中期経営計画～



会社概要：第一三共株式会社

◆ 証券コード : 4568 (東証一部)

◆ 単元株数 : 100株

◆ 設立 : 2005年9月

～三共と第一製薬の経営統合により設立～

◆ 事業内容 : 医薬品の研究開発、製造、販売等



代表取締役社長 兼 CEO
眞鍋 淳

企業理念

革新的医薬品を継続的に創出し、多様な医療ニーズに応える医薬品を提供することで、世界中の人々の健康で豊かな生活に貢献する

企 業 理 念

パーパス（存在意義）

世界中の人々の健康で豊かな生活に貢献する

ミッション

革新的医薬品を継続的に創出し、
多様な医療ニーズに応える医薬品を提供する

最大の強み

サイエンス&テクノロジー

長年引き継がれてきた強力な研究開発のDNA

1899 三共



三共初代社長
高峰譲吉博士
カチアスターゼ、アトレリンの発見

1915 第一製薬



前身のアーセニ商会を設立
慶松勝左衛門博士
サルバルサンを国産化（アーセニ）

高コレステロール
血症治療剤
1989 メバロチン®



一般名：プロバスタチン

高血圧症治療剤
2002 オルメテック®



一般名：オルメサルタン

合成抗菌剤
1993 クラビット®



一般名：レボフロキサシ

第一三共

抗血小板剤
2009 エフィエント®



一般名：プロスグレ

抗凝固剤
2011 リクシアナ®



一般名：エドキサバン

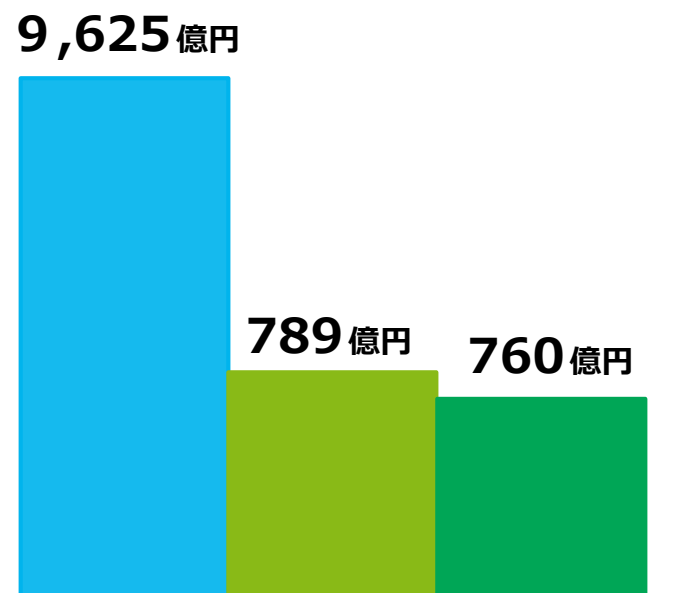
抗悪性腫瘍剤
2020 エンハーツ®



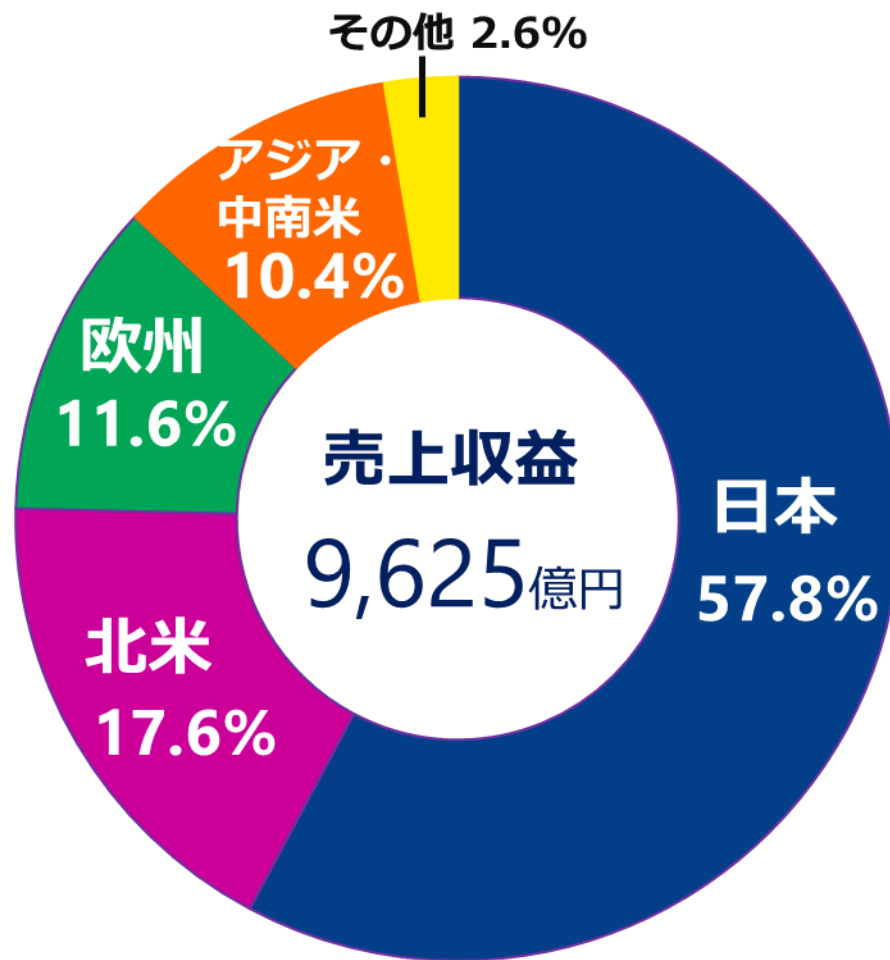
一般名：トラスツズマブ デルクステカン

2020年度の連結業績

- 売上収益
- コア営業利益*
- 当期利益
(親会社帰属)



2020年度 実績

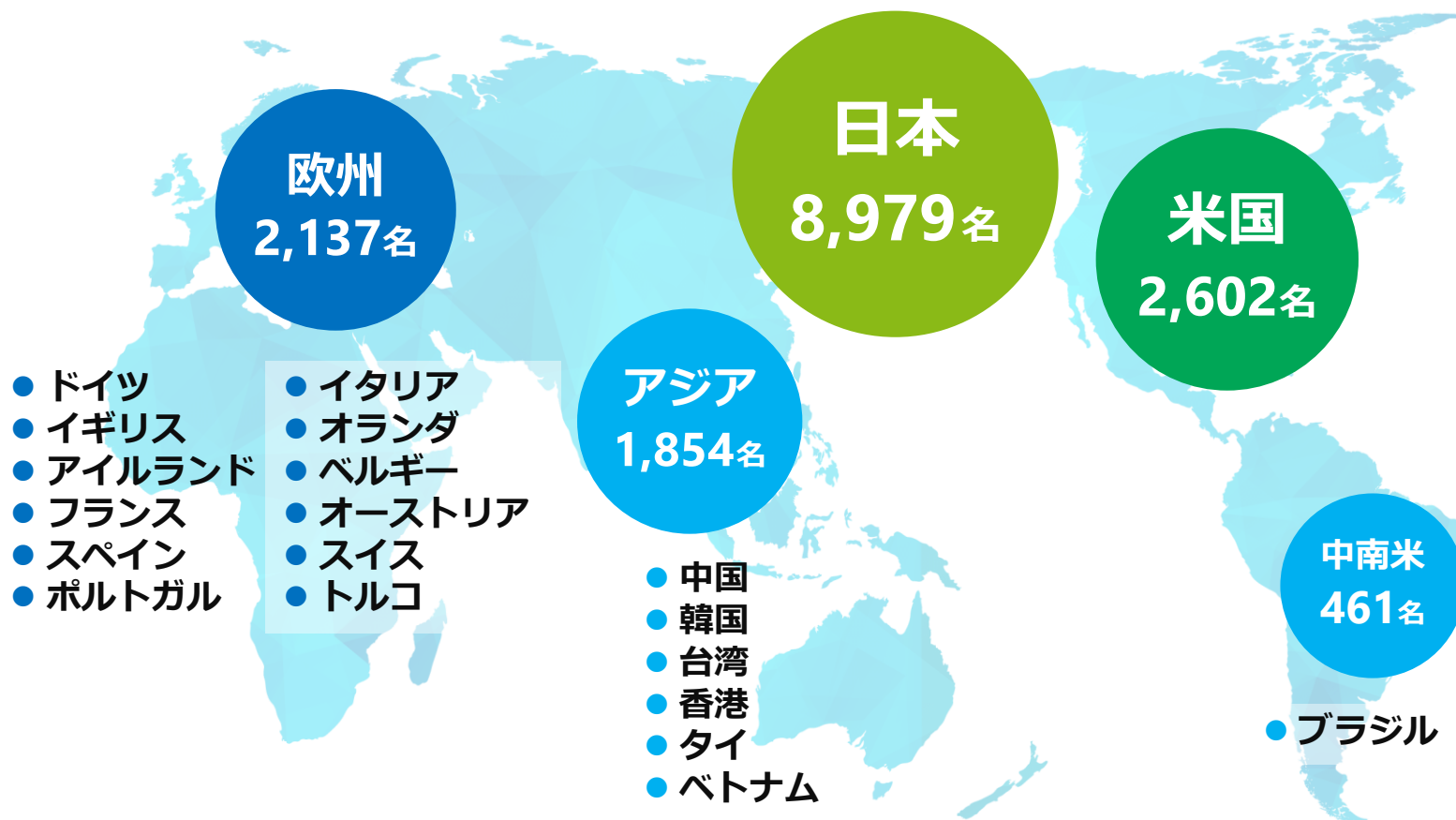


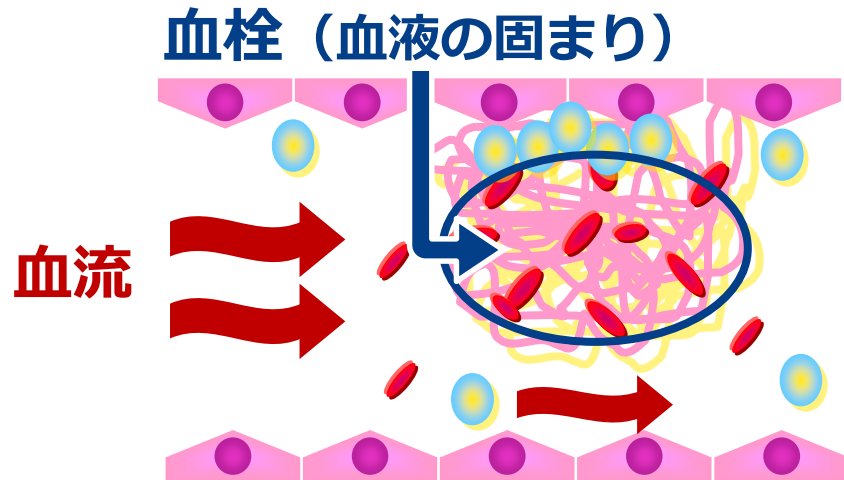
純資産	総資産	自己資本比率	ROE
1兆2,721億円	2兆852億円	61.0%	5.9%

* コア営業利益：営業利益から一過性の収益・費用（例：固定資産売却損益、事業再編に伴う損益など）を除外した経常的な収益性を示す指標

従業員と拠点（2021年3月末）

グループ従業員数
16,033名





1日1回投与の
利便性と
高い安全性の両立

- ◆ 心房細動による脳梗塞等の予防
- ◆ 肺塞栓症や、エコノミークラス症候群の治療・予防

リクシアナ®：売上収益 実績と予想

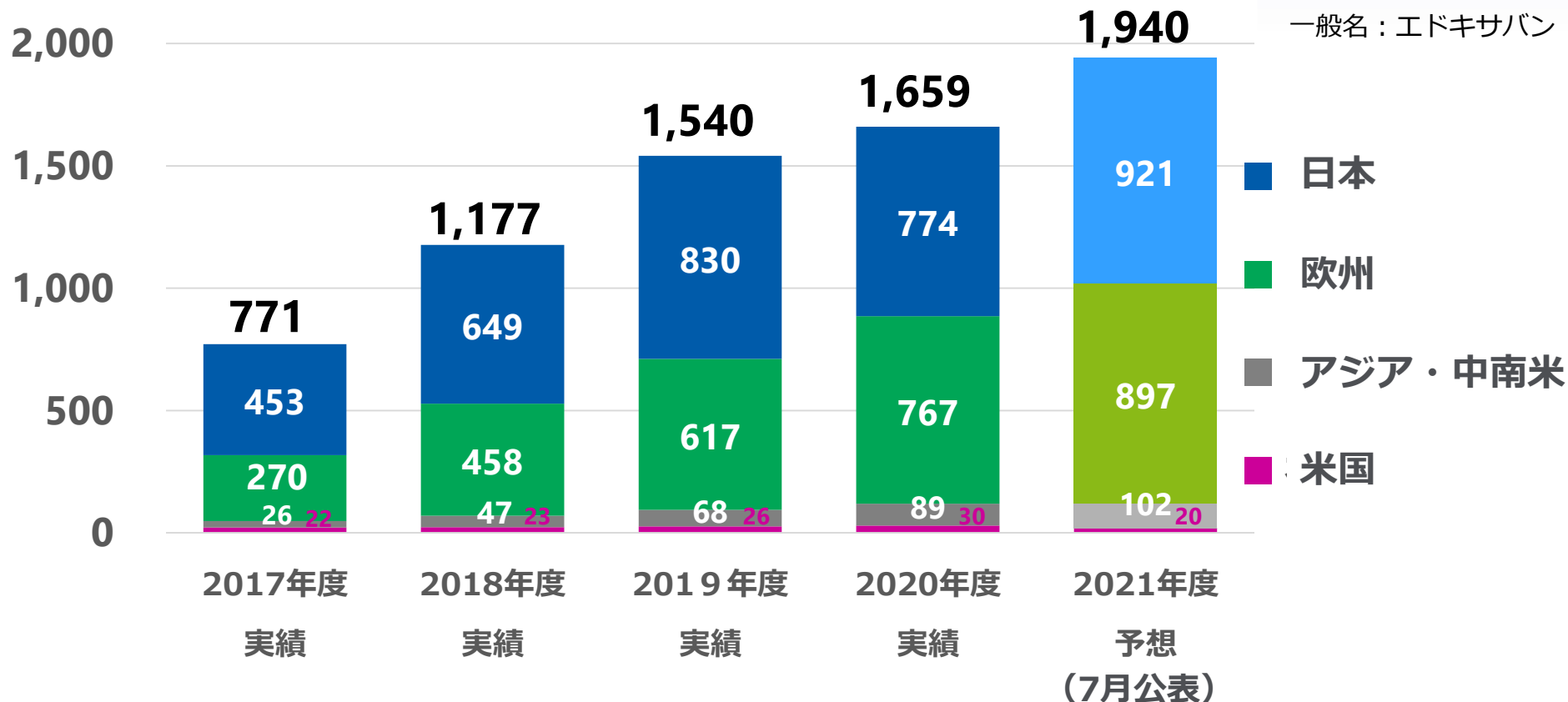
グローバル売上収益は、着実に拡大
2020年度実績：1,659億円
2021年度予想：1,940億円（7月公表）

抗凝固剤
リクシアナ®

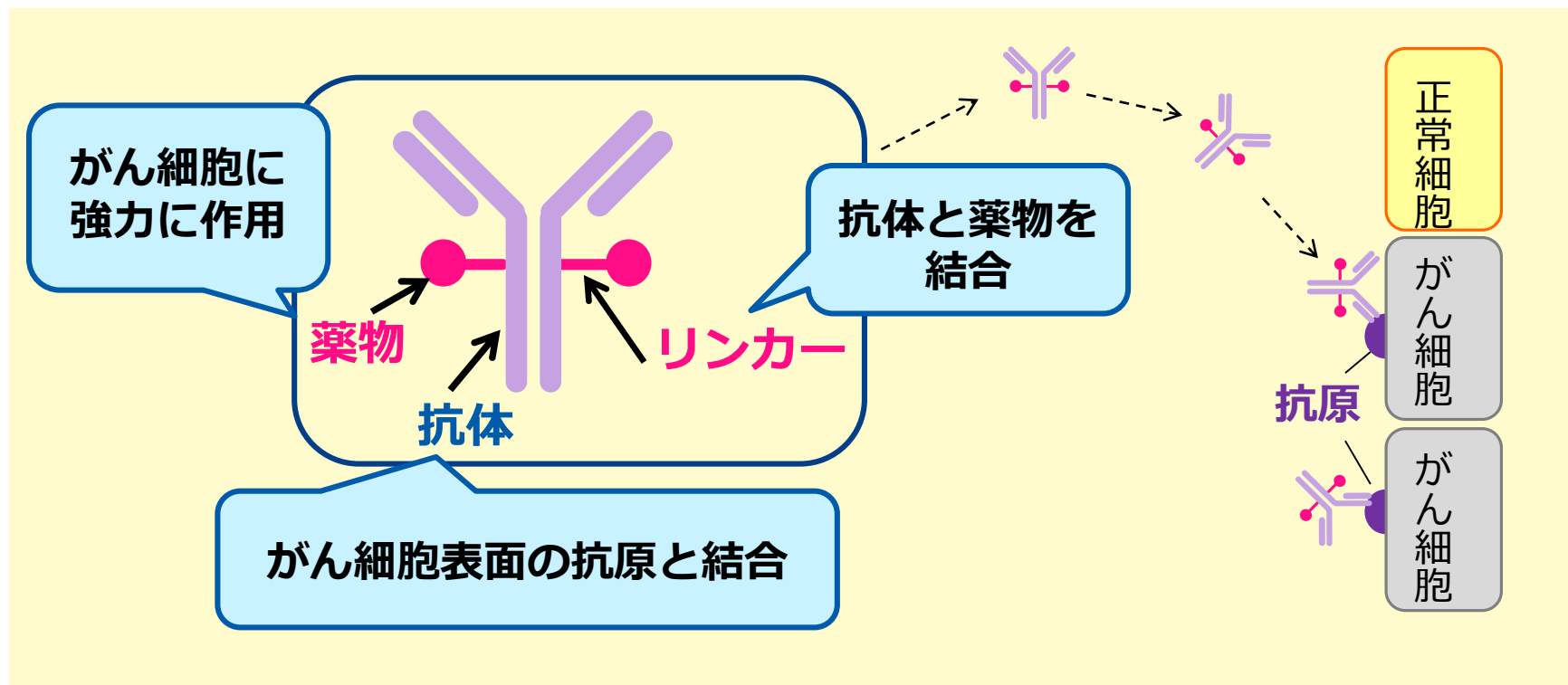


一般名：エドキサバン

（億円）



抗体薬物複合体（ADC*）



当社独自のADC技術

HER2という抗原を標的とするADC（抗HER2-ADC）

* ADC : Antibody Drug Conjugateの略



■ アストラゼネカとの戦略的提携（2019年3月締結）

提携内容：エンハーツに関する共同開発・共同販促



対象地域：グローバル



受領対価：最大で総額 7,590億円

- 契約時一時金 1,485億円
- 開発マイルストーン等 最大4,180億円
- 販売マイルストーン 最大1,925億円

（1ドル=110円として換算）

エンハーツ®：上市から地域・適応の拡大

がん領域における、当社初のグローバル製品



HER2陽性 乳がん 3次治療

- **米国**：2020年 1月 上市*1
- **日本**：2020年 5月 上市*2
- **EU**：2021年 2月 上市*3
- **英国**：2021年度第1四半期 上市*3



HER2陽性 胃がん 3次治療

- **日本**：2020年 9月 適応取得*4

HER2陽性 胃がん 2次治療

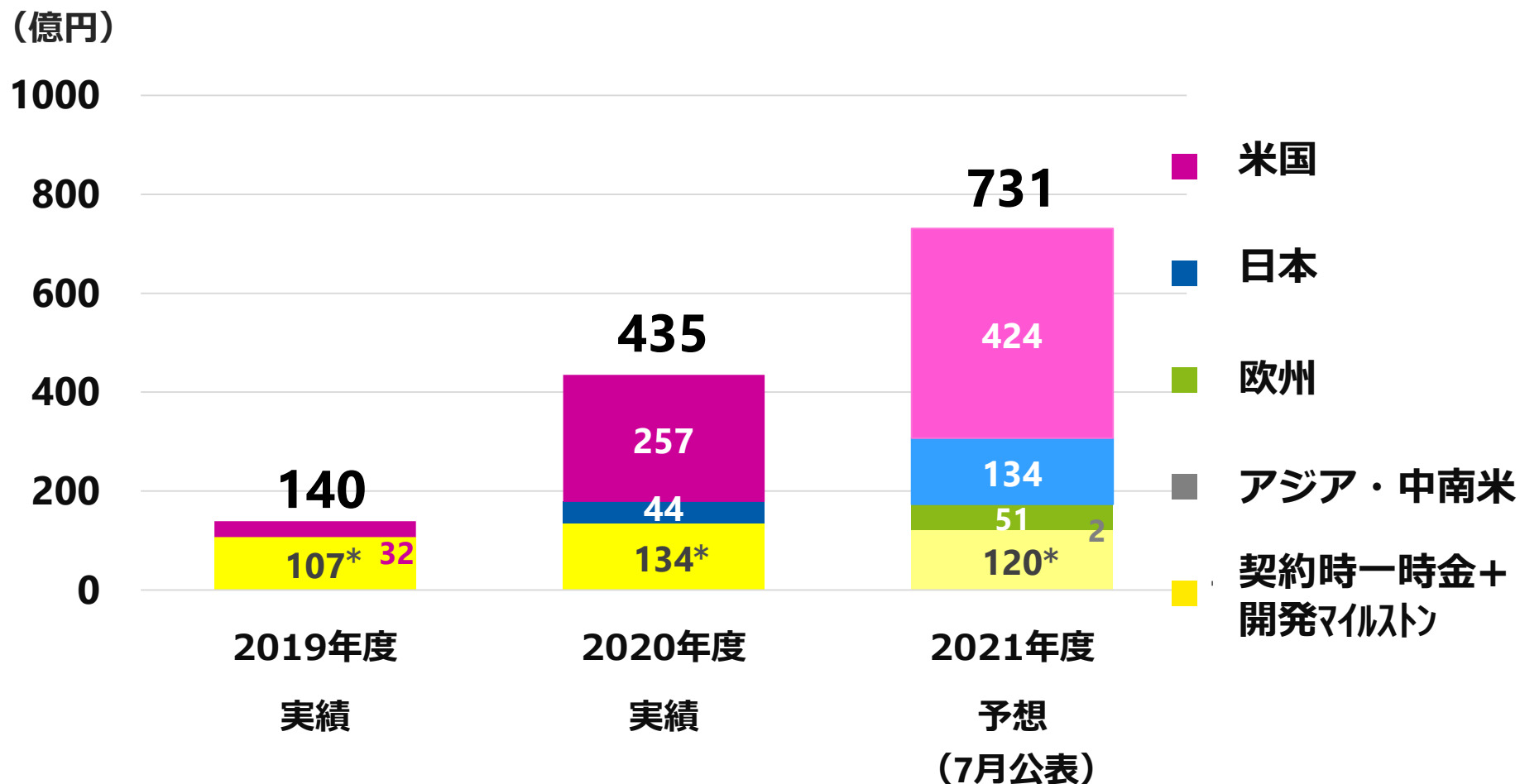
- **米国**：2021年 1月 適応取得*5

*1 転移性の乳がんに対する治療として2つ以上の抗HER2療法を受けたHER2陽性の手術不能又は転移性乳がん
*2 化学療法歴のあるHER2陽性の手術不能又は再発乳癌（標準的な治療が困難な場合に限る）
*3 2つ以上の抗HER2療法を受けた手術不能または転移性のHER2陽性乳がん
*4 がん化学療法後に増悪したHER2陽性の治癒切除不能な進行・再発の胃癌
*5 トラスツズマブを含む前治療を受けたHER2陽性の局所進行または転移性の胃腺がんまたは胃食道接合部腺がん

エンハーツ®：売上収益 実績と予想

抗悪性腫瘍剤 エンハーツ®

一般名：トラスツズマブ デルゲストカン



* 当該期の収益認識額

Dato-DXd（エンハーツ®）に続く当社のADC

■ エンハーツと同じ当社独自のADC技術

■ TROP2という抗原を標的とするADC
（抗TROP2-ADC）

■ アストラゼネカとの戦略的提携（2020年7月締結）



提携内容： Dato-DXdに関する共同開発・共同販促



対象地域： グローバル



受領対価： 最大で総額 6,600億円

- 契約時一時金 1,100億円
- 開発マイルストーン 最大 1,100億円
- 販売マイルストーン 最大 4,400億円

（1ドル=110円として換算）

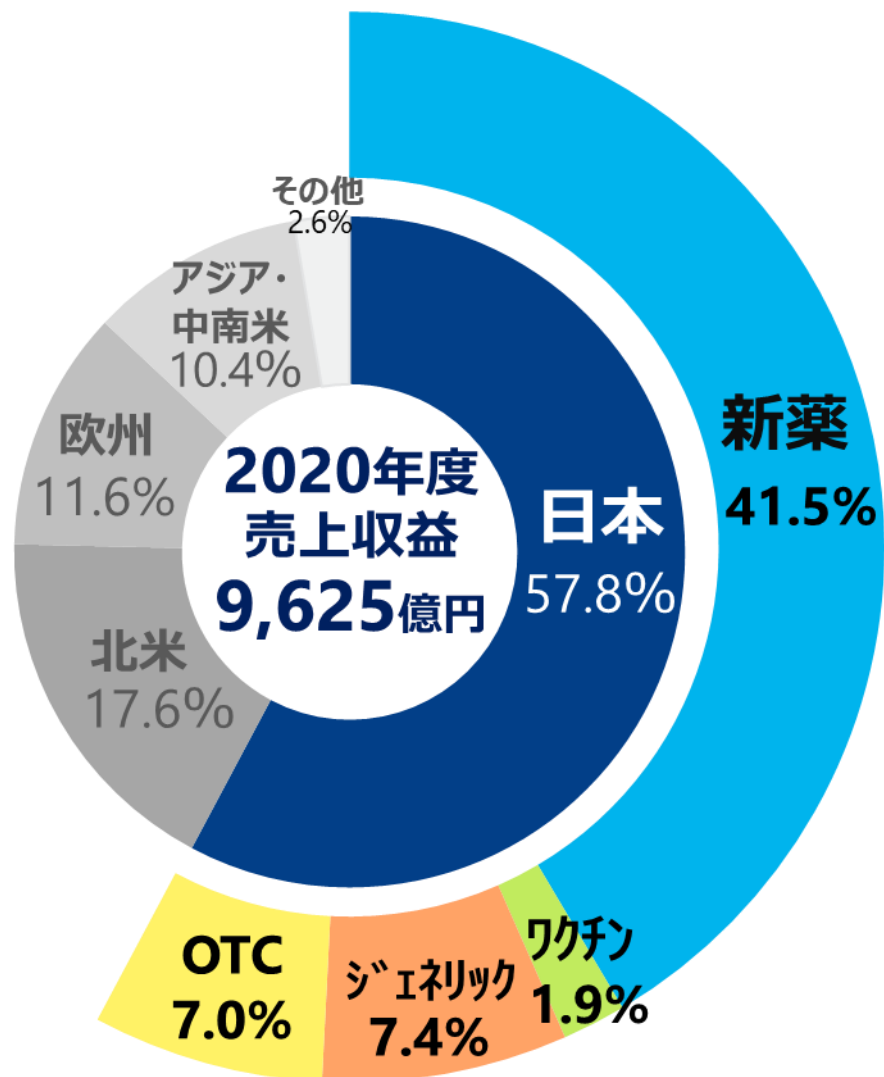
当社独自のADC技術の広がり

標的とする 抗原		目標適応	3 ADC (3つの主力ADC)
エンハーツ® (T-DXd)	HER2	乳がん、胃がん、肺がん 大腸がん、その他のがん	
Dato-DXd (DS-1062)	TROP2	肺がん、乳がん、その他のがん	
HER3-DXd (U3-1402)	HER3	肺がん、大腸がん、乳がん	
DS-7300	B7-H3	固形がん	
DS-6157	GPR20	消化管間質腫瘍	
DS-6000	CDH6	腎細胞がん、卵巣がん	
DS-3939	TA-MUC1	固形がん	

2021年7月現在

青文字は、臨床開発段階にある開発品

多様な医療ニーズに対応する4事業体制



新薬 (3,992億円)
～第一三共～

ワクチン (185億円)
～第一三共～

ジェネリック (714億円)
～第一三共エスファ～

OTC医薬品 (672億円)
～第一三共ヘルスケア～

日本の新薬事業における主力製品

抗凝固剤
リクシアナ®
一般名：エドキサバン



シェア
No.1 *1

921億円*2

骨粗鬆症治療剤
プラリア®
一般名：デノスマブ



シェア
No.1

356億円

疼痛治療剤
タリージェ®
一般名：ミロガバリン



310億円

2型糖尿病治療剤
テネリア®
一般名：テネリグリプチン



232億円

がん骨転移による
骨病変治療剤
ランマーク®
一般名：デノスマブ



シェア
No.1

204億円

抗てんかん剤
ビムパット®
一般名：ラコサミド



191億円

2型糖尿病治療剤
カナリア®
一般名：テネリグリプチン/
カナグリフロジン*



* 両成分の配合剤

157億円

抗血小板剤
エフィエント®
一般名：プラスグレル



156億円

*1 シェアNo.1.は、2020年度の売上実績基準

*2 各品目の下段の金額は、2021年度国内（日本）売上収益予想（2021年7月発表）

第一三共ヘルスケア主力製品（OTC医薬品 等）

熱のど、鼻に、
ルルが効く♪

かぜをひいたら、
子どもも、大人も、
このひと瓶。

ルル 70
70年
日本のかぜには、ルル3錠。

新ルルAゴールドDXα

7歳から
飲める
新処方！

【第1医薬品】

メディカル発想で、シミに挑む。

内から

TRANSINO
ホワイトニング
錠

TRANSINO
WhiteC clear
美容液

外から

TRANSINO
SKINCARE TRIS
美容液

人生おいしい

胃と腸を、両方スッキリ整える。
第一三共胃腸薬プラス

【第1医薬品】

肌とやさしさのあいだに。
MINON.

new!

MINON
アミノモイスト
乳液

MINON
アミノモイスト
化粧水

痛みに速戦力
NEW
LOXONIN'S QUICK

独自技術・
クイックブレイク製法

【第1医薬品】

肌とやさしさのあいだに。
MINON. Amino Moist

やわ肌、
ふわッ

ゆらがんぞ、私。

【第1医薬品】

つらい肩・腰・関節の痛み
ロキソニンS

効く。

だから

直接浸透。

【第1医薬品】

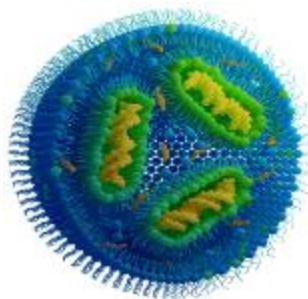
原因から、
におわせない発想

2大口臭を原因から除去 製薬会社のプレスラボ

【第1三共ヘルスケア】

DS-5670：遺伝子（mRNA）ワクチン*

特徴



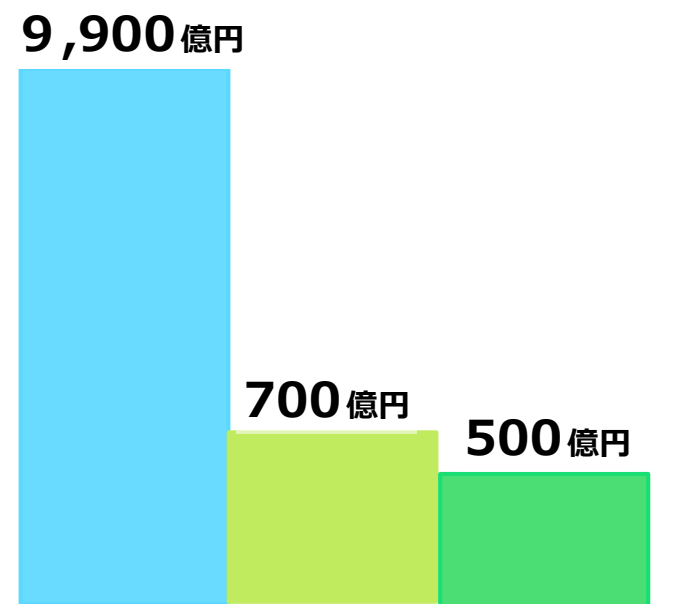
- 当社が見出した新規核酸送達技術
- 受容体結合領域が標的
⇒ 変異株に対しても効果が期待される

- ◆ 2021年3月にPh1/2試験を開始
被験者登録を終了
安全性、免疫原性、及び推奨用量を検討中
- ◆ 年内に数千人規模の実薬対照非劣性検証試験を開始予定
薬事等条件が整った場合は、
暦年2022年中の申請および実用化を目指す



* AMED（国立研究開発法人日本医療研究開発機構）が支援する
「新型コロナウイルス（2019-nCoV）の制圧に向けての基盤研究」に参画

2021年度の連結業績予想



2021年度 予想
(7月公表)



将来の成長への投資である

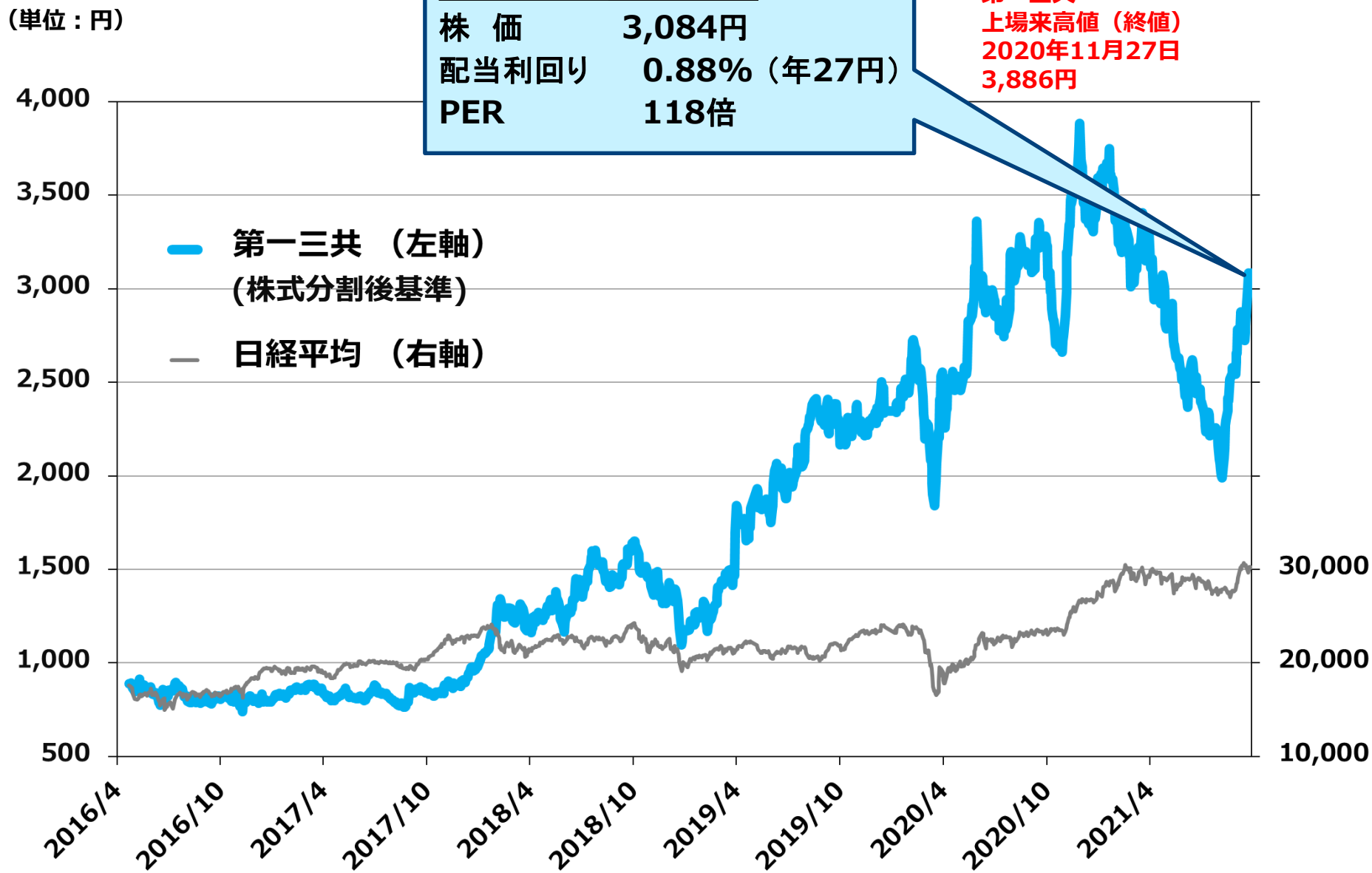
研究開発費

2,660億円



* コア営業利益：営業利益から一過性の収益・費用（例：固定資産売却損益、事業再編に伴う損益など）を除外した経常的な収益性を示す指標

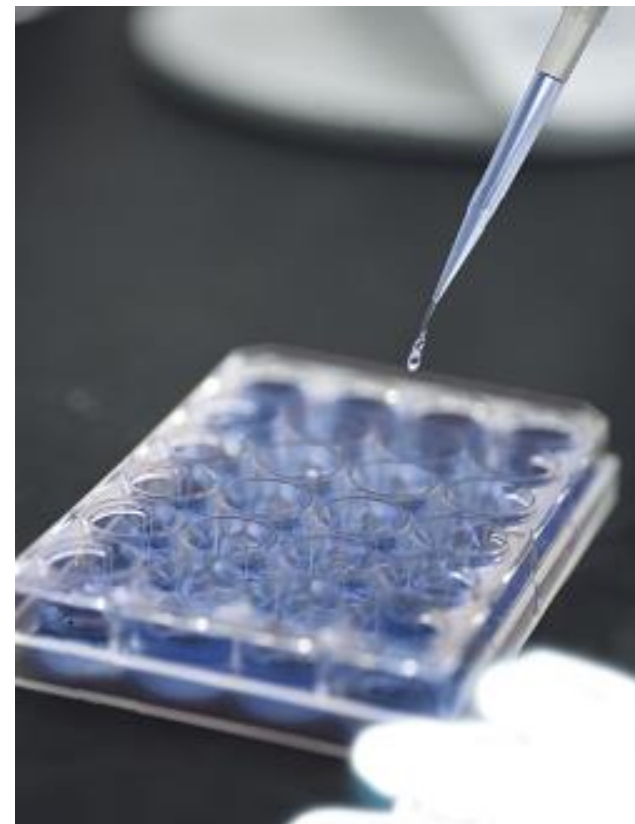
株価の推移



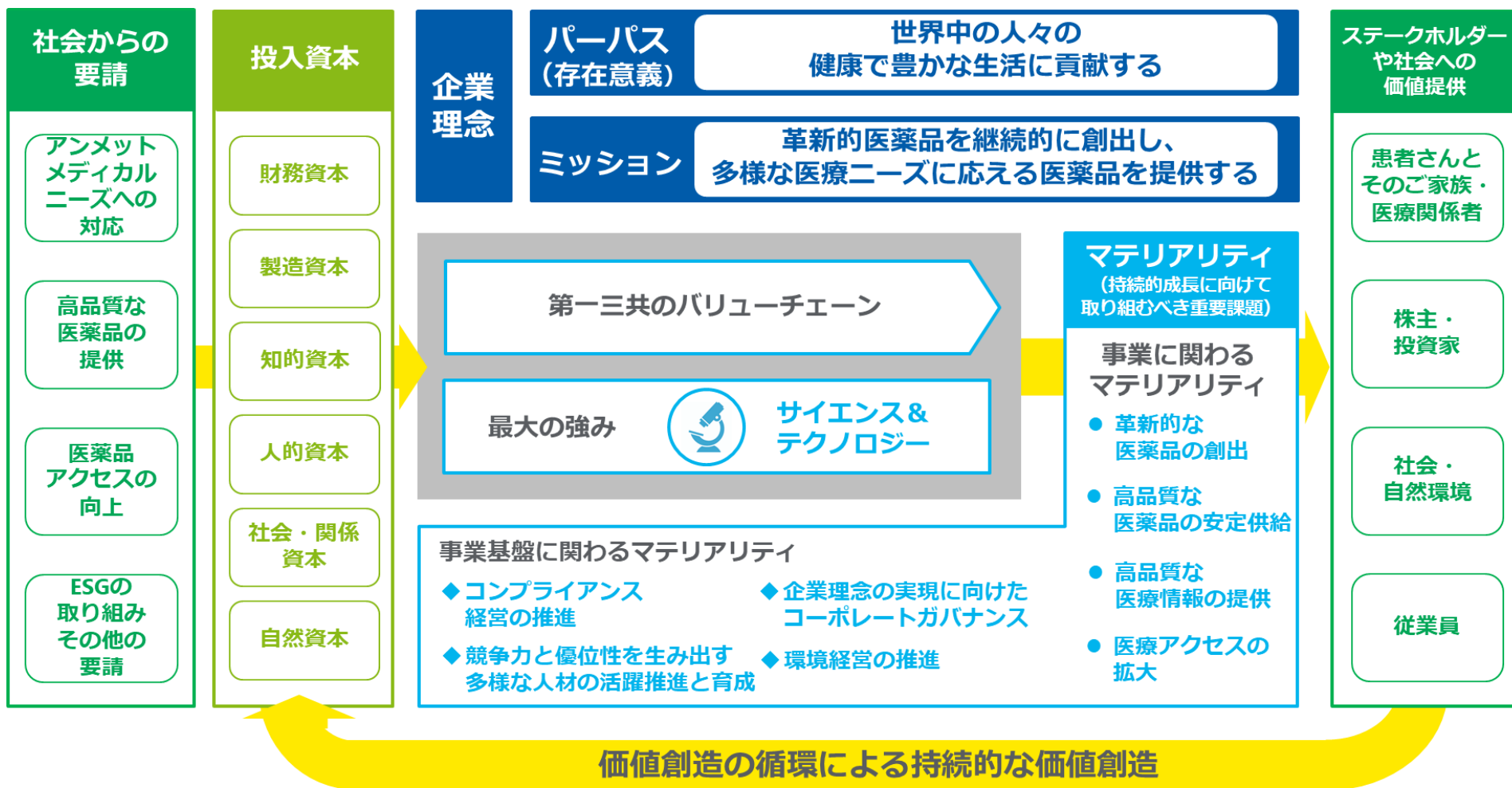
1. 医薬品業界について

2. 第一三共の現況

3. 第一三共の成長戦略 ～第5期中期経営計画～



第一三共の価値創造プロセスとESG経営



2030年 ビジョン

サステナブルな社会の発展に貢献する
先進的グローバルヘルスケアカンパニー

われわれの強みである
“サイエンス&テクノロジー”に基づき、
イノベーティブなソリューション提供に挑戦し続けます

ESG経営のもと、第5期中計期間は2025年度目標
がんが強みを持つ先進的グローバル創薬企業を達成し、
2030年ビジョン実現に向けた成長ステージに移行

2021-2025
第5期中計

2025年度目標を
達成し
成長ステージへ

2030年ビジョン

サステナブルな社会の
発展に貢献する
先進的グローバル
ヘルスケアカンパニー

第5期中計戦略の柱

2025年度目標を達成し成長ステージへ

2025年度計数目標

- ◆ 売上収益：1兆6,000億円（がん領域：6,000億円以上）
- ◆ ROE：16%以上
- ◆ 研究開発費控除前 コア営業利益率：40%
- ◆ DOE*：8%以上

3ADC最大化の実現

- ◆ アストラゼネカとの戦略的提携を通じたエンハーツ、Dato-DXd最大化
- ◆ HER3-DXdの自社開発と最大化
- ◆ 製品ポテンシャルに合わせた効率的・段階的な要員・供給キャパシティ拡大

既存事業・製品の利益成長

- ◆ リクシアナ利益最大化
- ◆ タリージェ、Nilemdo等の早期拡大
- ◆ 新薬を軸とした収益構造へのトランスフォーメーション
- ◆ アメリカン・リージェント、第一三共ヘルスケアの利益成長

更なる成長の柱の見極めと構築

- ◆ 3ADCに次ぐ成長ドライバーの見極め
- ◆ ポストDXd-ADCモダリティの選定

ステークホルダーとの価値共創

- ◆ 患者さん：Patient Centric Mindsetによる患者さんへの貢献
- ◆ 株主：バランスのとれた成長投資と株主還元
- ◆ 社会：バリューチェーン全体の環境負荷の低減、およびパンデミックリスクへの対応
- ◆ 従業員：One DS Cultureの醸成に向けたCore Behaviorの実践

- ◆ DX推進によるデータ駆動型経営の実現と先進デジタル技術による全社の変革
- ◆ 新たなグローバルマネジメント体制による迅速な意思決定の実現

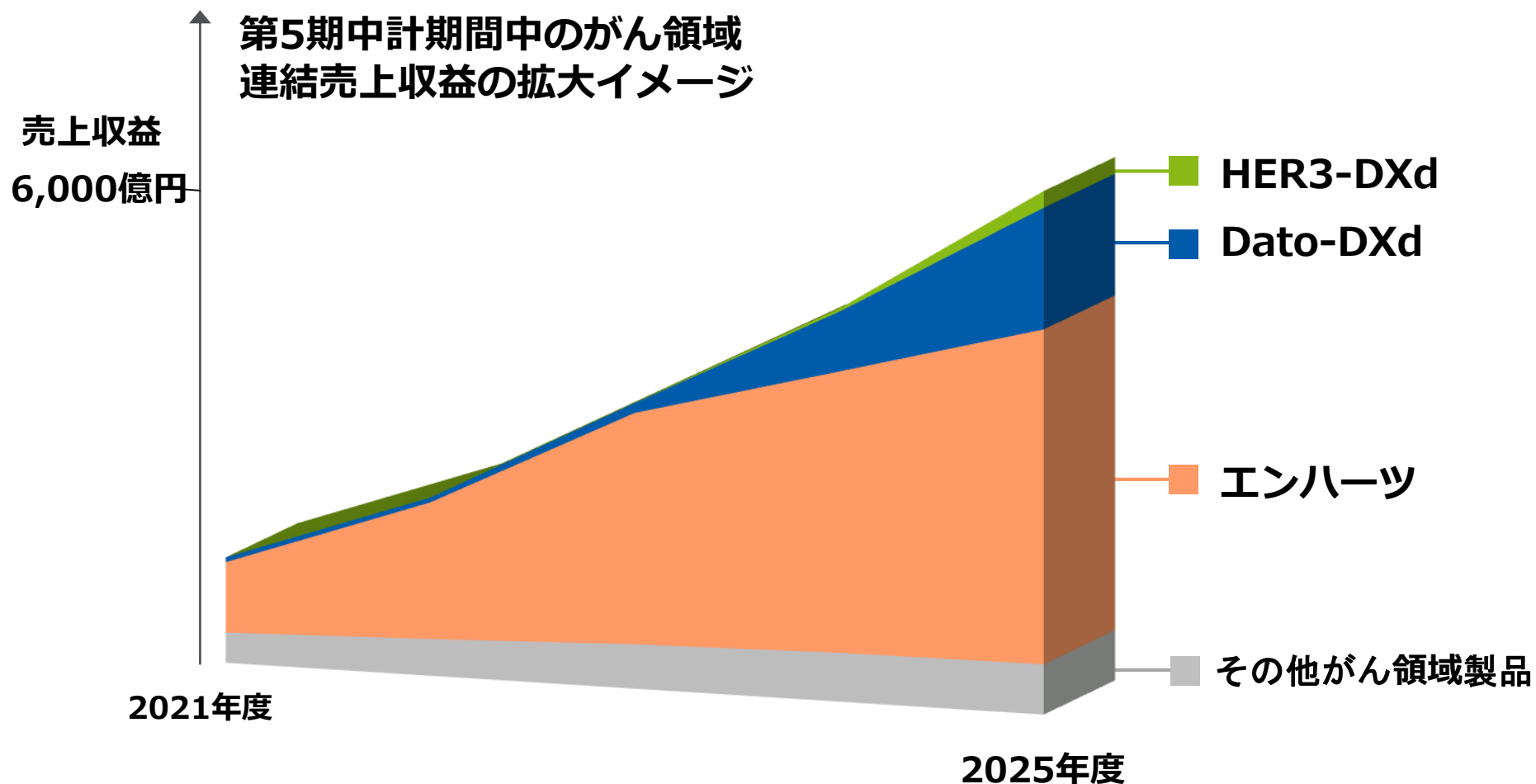
* DOE：株主資本配当率 = 配当総額 ÷ 株主資本（親会社の所有者に帰属する持分）

3ADC最大化の実現

- ◆ アストラゼネカとの戦略的提携を通じたエンハーツ[®]、Dato-DXd最大化
- ◆ HER3-DXdの自社開発と最大化
- ◆ 製品ポテンシャルに合わせた効率的・段階的な要員・供給キャパシティ拡大

がん領域の売上収益目標

3ADCの最大化により、
2025年度売上収益 6,000億円以上を目指す



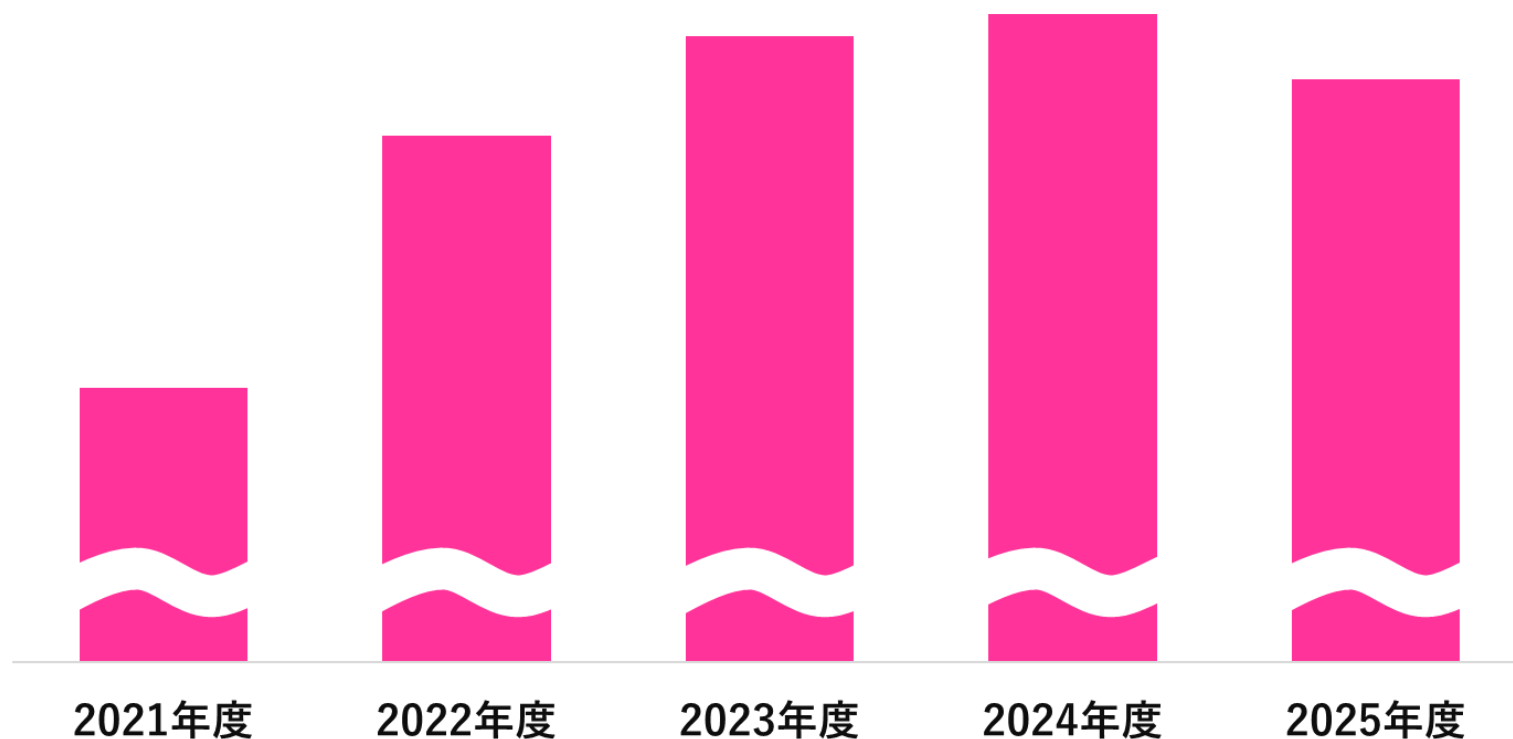
既存事業・製品の利益成長

- ◆ リクシアナ[®] 利益最大化
- ◆ タリージェ[®]、Nilemdo[®] 等の早期拡大
- ◆ 新薬を軸とした収益構造へのトランスフォーメーション
- ◆ アメリカン・リージェント、第一三共ヘルスケアの利益成長

リクシアナ[®]の利益拡大

ピーク時2,200億円以上の売上収益を達成し、
安定利益を生み出す製品へ

連結売上収益拡大イメージ



更なる成長の柱の見極めと構築

- ◆ 3ADCに次ぐ成長ドライバーの見極め
- ◆ ポストDXd-ADCモダリティ*の選定



DXd-ADCファミリー



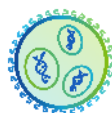
第二世代・新コンセプトADC



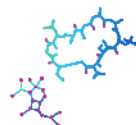
改変抗体等



核酸（ENA[®]ファミリー）



LNP-mRNA



次世代合成医薬品



遺伝子治療



細胞治療



デジタルソリューション

*モダリティ：ADC、核酸医薬、細胞医薬などの新規治療手段

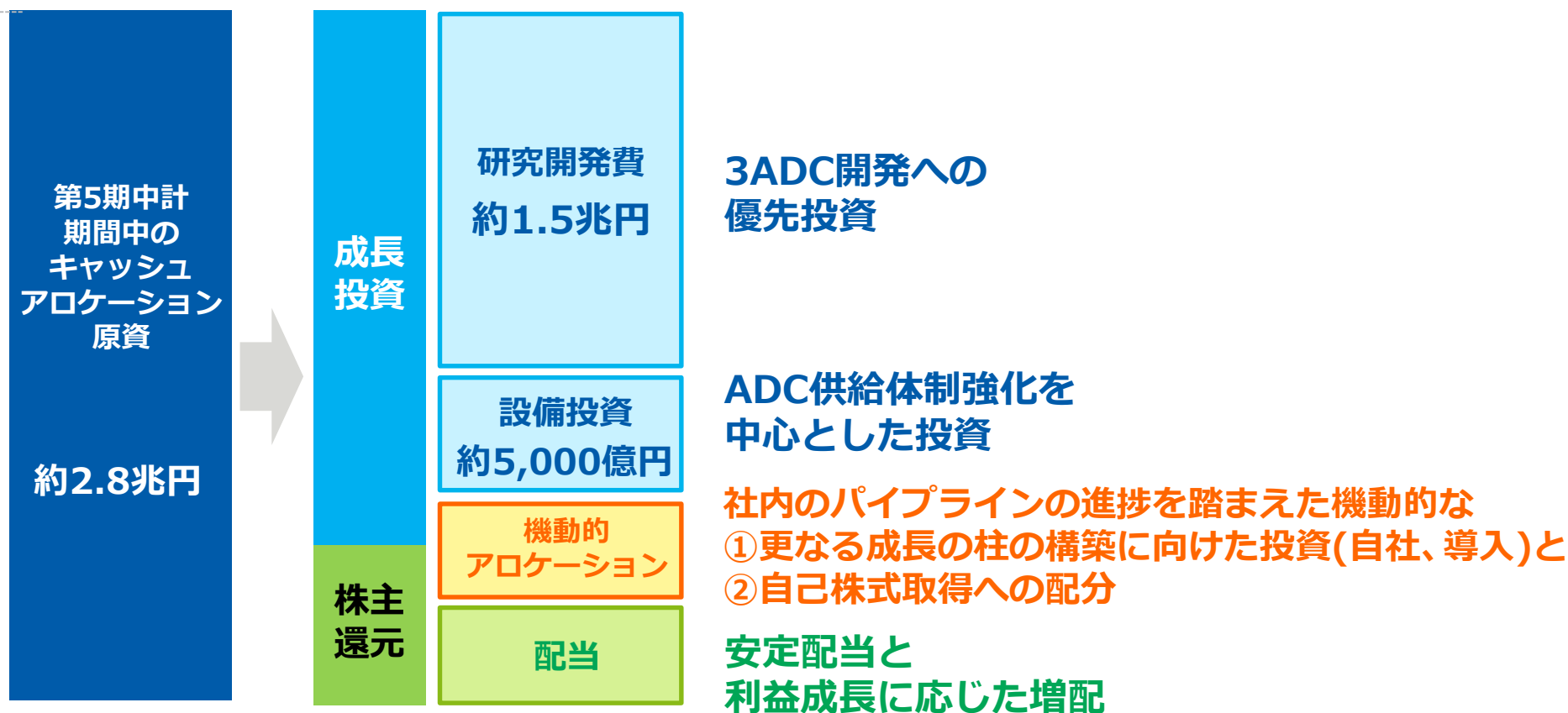
ステークホルダーとの価値共創

- ◆ 患者さん : Patient Centric Mindsetによる
患者さんへの貢献
- ◆ 株 主 : バランスのとれた成長投資と株主還元
- ◆ 社 会 : バリューチェーン全体の環境負荷の低減、
およびパンデミックリスクへの対応
- ◆ 従業員 : One DS Cultureの醸成に向けた
Core Behaviorの実践

バランスのとれた成長投資と株主還元

3ADCの研究開発・設備投資を第一優先とし、利益成長に応じた配当を行う

キャッシュ・アロケーションの規模イメージ



株主還元のさらなる充実

- 普通配当1株当たり27円の維持に加え、利益成長に応じた増配
- 機動的な自己株式取得

株主価値の最大化

- 株主資本を基準とするDOE*の採用による安定的な株主還元

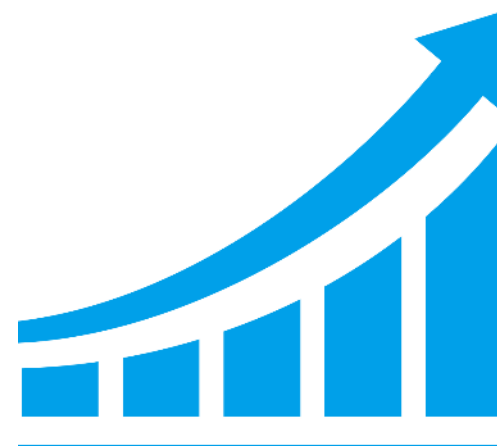
2025年度目標：DOE 8%以上

* DOE：株主資本配当率 = 配当総額 ÷ 株主資本（親会社の所有者に帰属する持分）

2025年度の計数目標

2025年度における計数目標

- 売上収益
1兆 6,000億円（がん領域：6,000億円以上）
- 研究開発費控除前コア営業利益率
40%
- ROE
16%以上
- DOE
8%以上



3ADCの投資先行期を乗り越え、大幅な売上・利益成長を実現し
2030年ビジョン実現に向けた新たなステージへ



**第一三共グループは世界中の人々の
健康で豊かな生活に貢献してまいります**



ご紹介：第一三共IRメールマガジンと公式FaceBook

◆ 第一三共IRメールマガジンのご紹介

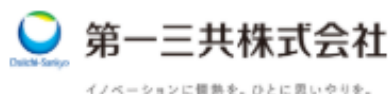
IR情報を中心とした ウェブサイト更新情報や
第一三共についての情報を
原則 毎月2回 お届けします。



INDEX

- 【01】：欧州臨床腫瘍学会（ESMO 2021）における発表のハイライト
- 【02】：ニュースリリースピックアップ
- 【03】：第一三共からのお知らせ
- 【04】：皆様からの声

—2021年9月30日号—



一般・患者の皆さま 医療関係者の皆さま[®] 採用情報 お問い合わせ Global | 

| 第一三共について | Our Stories | サステナビリティ | 研究開発 | 株主・投資家の皆さま | 報道関係者の皆さま | パートナリング |

ホーム > 株主・投資家の皆さま > IRメールマガジン



ウェブサイトからご登録ください



第一三共公式Facebookのご紹介

主に、社員やサステナビリティ活動についての情報をお届けしています。
アカウントをお持ちの方はぜひご覧ください。



本資料に関するお問い合わせ先

第一三共株式会社
コーポレートコミュニケーション部

TEL: 03-6225-1125 (株式市場関係者の皆様)
03-6225-1126 (報道関係者の皆様)

Email: DaiichiSankyoIR@daiichisankyo.co.jp